

開幕戦登板の新人・上原

い球を投げろ」。内野手から「きた」。3人目を三塁打に打ち声が飛ぶ。「周りの声を聞き取り、ほろ苦い初マウンドは終て、なんとか落ち着くことがでわった。

徳島のルーキー・上原優人投手(18)が初マウンドで洗礼を浴びた。開幕戦の香川戦、0-2とリードを許した八回2死から登板。最初の打者、4番の宋に内角直球をレフトスタンドに運ばれた。「この世界の厳しさを感じた」

痛恨の1球だった。1ボール

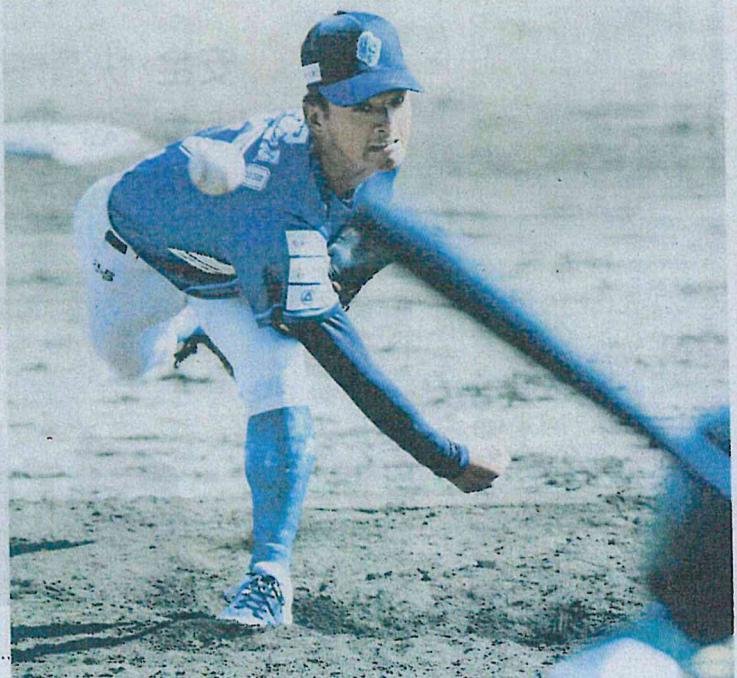
1ストライクからの3球目。

「甘くなってしまったが、まさかスタンドまで運ばれるとは」。滞空時間の長い弾道を見届けると2度、3度とマウンド上で首をかしげた。

内角というコースは捕手の要求通り。ただ高さを間違えた。

「膝元に投げてファウルを打たせたかった」が、うまくコントロールできず、ボール2個分高く入ったところを痛打された。

続く打者・中村にもフルカウントから中前へ運ばれた。「落ちかけ」「優人、自分の投げた



開幕戦でプロ初デビューした徳島インディゴソックスの上原優人投手(20日・レクザムスタジアム)

雪辱へ「次も逃げずに勝負」

地元・生光学園高出身。無観客が解ければ応援に行くと言つてくれる仲間や知人も多い。「周囲の期待に応えられる投手にならなければ」。1球の重さを胸に刻み、雪辱に向けて腕を振る。

(山岸章利)

試合後から腕の振りを人念に確認し「徐々に良い感じになつていい」と好感触を得ている。「いい勉強だったと言えるようしたい。次のマウンドでも逃げずに打者へ向かう」。細かな制球ミスを逃してはくれない一段上のレベルを初舞台で体験できたことをプラスに捉える。

コロナ禍で開幕が遅れ、今季は連戦が多い過密日程となる。中継ぎの役割が重要なとともに承知している。「自分が良い投球をすることでチームを楽にしたい」

「周囲の期待に応えられる投手にならなければ」。1球の重さを胸に刻み、雪辱に向けて腕を振る。